

2023年度 第10回例会(Webinar) 「コロナ禍の死亡率の変化」

アジア、ヨーロッパ、北アメリカのそれぞれ数か国における2020年から2022年までコロナ禍の死亡率への影響を、その長期的な傾向と比較した検証結果を説明します。具体的には以下の内容について説明をします。

- ・コロナ前の死亡率の長期的傾向
- ・コロナ前10年間の死亡率傾向に対するコロナ禍の超過死亡数を推定
- ・超過死亡と一連の社会経済的要因との相関分析
- ・2020年から2022年の死亡率の影響と将来の死亡率影響を予測

パンデミックに関連する死亡率のショックがどのように軽減されるかについての様々な仮定を反映するために、確率モデルを拡張します。モンテカルロシミュレーションを通じて、寿命への見込まれる死亡率への影響を評価します。

◆日時：2024年2月27日(火) 17:30 ~ 19:00

※当日の参加が難しい方のために、後日、録画動画のオンデマンド配信を実施いたします。オンデマンド配信を視聴した場合にも当日参加と同様、公式CPD単位として反映しますので、当日の参加が難しい方は是非ご活用ください。

【3月12日(火)～3月25日(月)の期間にオンデマンド配信にて再放送を実施(予定)】

再放送の参加方法等は改めてご案内いたします。

また、当日の講演動画はeラーニングコンテンツとして掲載予定ですので、当日・再放送ともに参加できなかった方はeラーニングコンテンツをご活用ください。

◆会場：ZoomによるWebinar開催(定員 先着500名)

◆講師：神谷 信一 氏

＜ Associate Professor, Nanyang Technological University Singapore ＞

◆参加登録：別紙をご参照ください。定員に空きがあれば、開催時刻まで登録は可能です。

※登録の際にご入力いただく氏名・会員番号・生年月日は、例会当日のCPD単位のための出席確認に利用します(単位集計をより正確に行う目的で、生年月日のご入力をお願いしております)。お間違えのないよう、正確にご入力をお願いいたします。

※登録上限を500名に設定しており、上限に到達した場合には登録ができません。参加を取りやめる場合は登録のキャンセルをお願いいたします。

◆講演資料：当会会員ホームページからダウンロードしてください(講演当日までに掲載予定)。

◆質疑応答：QA・アンケートツールである「Slido」を使用します(詳細は別紙をご確認ください)。パソコンでライブ配信を視聴し、スマートフォンでSlidoを使用することをお勧めします。なお、「Zoom」のQ&Aにご入力いただいた質問も、例会事務局にて「Slido」へ転記します。

■講師プロフィール

神谷 信一 氏

シンガポール南洋理工科大学ビジネススクールの准教授で、保険数理やリスク管理の授業科目を担当。保険リスク・ファイナンス研究センターの副所長を務める。2010年にウィスコンシン大学マディソン校で博士号を取得し、2003年にイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で応用数学の修士号を取得。最近の研究ピックは気候リスク、災害リスク管理、企業リスク管理などで、研究論文はJournal of Financial Economics、Journal of Risk and Insurance、North American Actuarial Journal、やInsurance: Mathematics and Economicsなどに掲載されている。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、安田火災海上保険に入社。